

小学校・5 学年・外国語科・自己紹介をしよう①

育成を目指す資質・能力

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

活動のねらい

英語を使って、その場で初めて出会う人とお互いのことを分かり合うためにできることやできないことを含めて自己紹介し合うことができる。

ICT活用のポイント

- ・ICTを活用し、ALTが本来勤務校に滞在しながら、空き時間等に個室で本校の活動に参加できるようにしている。
- ・子供が必要に応じてICT端末を操作して、伝えたいものを拡大して映している。

本活動のねらいを確認

班ごとにICT端末を使って言語活動を実施

活動後、やり取りの内容を全体で共有

ねらいを達成するための工夫を確認

事例の概要

- ・子供たちは、班ごとにICT端末を使い、初めて出会う相手と自己紹介をし合う。
- ・子供たちは、自分について相手に伝えることをあらかじめ考えてはいるが、相手の反応に応じて、その場でやり取りを行う。相手の話すことが聞き取れなかったり、自分の言いたいことをどう伝えればよいか分からなかったりする場合は、班で助け合う。
- ・このような活動を行うことで、子供たちは既習表現を駆使し、ジェスチャーを使ったり、必要に応じてICT端末を操作して伝えたいものを拡大して映したりするなどして、初めて出会う相手とやり取りする達成感を味わうことができた。

小学校・5 学年・外国語科・自己紹介をしよう②



【ICT端末でつながる様子】



【ALTの遠隔による参加】

○活用したソフトや機能
ウェブ会議ソフト

【単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力を育成するために】

英語話者との単なる交流イベントにするのではなく、複数単元での学習内容を基にした言語活動として、子供の外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力の基礎の育成につながるよう、年間指導計画の中に位置付けて行いたい。そのためには、**なぜ市内のALTに自分のことを分かってもらったり、相手のことが分かったりするために自己紹介をし合うのかなどの、コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定が大切**である。

(例) ALTが、「友達のALTは自分の勤務校が一番素晴らしいと言っているが、私はこの学校こそが一番素晴らしいと知らせたい。だから、自分や友達、先生のできることを紹介し、この学校の素晴らしさを伝えることに協力してほしい」と子供たちに依頼をする。

【ICT活用のポイントの補足】

初めて出会う英語話者に自己紹介をするという場面設定は、子供にとって英語を使うコミュニケーションを図る動機付けになるとともに、言語活動中心の授業となる。しかしながら、1校に複数のALTを同時時間帯に集めるためには、本来の勤務校等との調整が必要である。本事例では、**ICT活用の強みを生かして、市内複数のALTは勤務校での空き時間に遠隔で本活動に参加しており、他の学校でも実施可能な活動**としている。

【今後期待される展開】

- ・本事例は、第5学年のものであり、初対面の英語話者とやり取りをすることに不安を感じる子供もいることに配慮し、班単位で実施している。今後、言語活動を通してその場でやり取りする資質・能力を育成したうえで、**ICT端末を個別に使って初対面の英語話者と1対1でやり取りをする活動に発展することが期待される。**
- ・教師は、子供が班ごとに英語話者とやり取りしている様子を観察し、**個別支援を行ったり、やり取りの様子を録画しておき、評価材料としたりすることもできる。**